

會員一同は運動費一人當り三圓の齎出を決議したり。三支部の歩調は茲に整一せり。此運動の統率者たる聯合會理事及三支部幹部左の如し、

△足尾聯合會 理事 梅田晚翠 鈴木泰次 齋藤太七 可兒吉雄 高梨二男 島貫萬次郎 水上勘藏

村井保太郎 杉本定吉 青木周吾 上野鹿藏

△通洞支部 支部長 山本徳太郎 幹事長 大森源次郎

△本山支部 支部長 石山寅吉 幹事長 石田留松

△小瀧支部 支部長 關谷博 幹事長 室山慶次

▽全國坑夫組合亦起つ

全日本鑛夫總聯合會足尾聯合會が、愈起つに決せる時、全國坑夫組合が、遇然にも之と提携し同一行動を採るに到れるは事件劈頭の奇蹟と云ふを妨げず。全國坑夫組合は大正八年九月創立せられたる坑内夫の組合にして、會長として法學士河合榮藏氏、副會長石渡春雄氏(當時帝大の思想團體新人會の先輩たり。現前橋地方裁判所檢事)顧問吉野作造、今井嘉幸兩博士、法學士佐野學氏、衛生顧問藤本、河田、大槻、伊藤四醫學士(帝大醫科在職)評議員赤松克麿、新明正道、吉崎龍介(以上新人會員)等最高幹部たり。昨年に到り、全國坑夫組合が、友愛會鑛山部其他ご合同して全日本鑛夫總聯合會を成

すや、會長河合榮藏氏は麻生氏と、もに總聯合會の常任理事に任じ、坑夫組合庶務主任坂口義治氏は總聯合會の副理事に任じたるが、當日坂口氏と同級たる共濟主任高島信次氏は獨り之に満足せず、足尾に赴き「坑夫組合は、友愛會に併呑さるべきにあらず」と主張したり。坑夫組合の中には友子同盟の親方株等ありて坑夫の上前にて生活せるものも多かりしと、且つ友愛會の主義とは元來合致し難きこともありしことゝて足尾坑夫約三百五十名は合同に賛成せず、足尾のみ別派となりて總聯合會に加はらざりき。爾後總聯合會と坑夫組合とは其間圓滿ならず、加ふるに坑夫組合は穩健主義を取り、會社は之に好意を表し同組合の會費は、會社給料支拂の際天引して組合に渡す等珍奇なる労働組合待遇法を實施し來りし位なり。而して昨年暮に到り、石塚新藏氏は坑夫組合に入り留守會長格に就任したり。石塚氏は警察官出身にして労働新報を經營しつゝありし人、而して石塚氏が坑夫組合に入りしは、坑夫組合が機關紙を有せざるため會報を之に掲載せる關係よりしてなるべく、組合長河合氏が總聯合會に入り、更に大阪に移るや、石塚氏の留守會長は出現したるものにして、そは高島氏より石塚氏に提携を求めたるものゝ如し。

かくの如き事情の下にある坑夫組合が、總聯合會と共に起ちたるは、兩者の情實關係より之を見る時其理由の判断に苦むところなりしが、坑夫組合は「労働者は其情實如何に不拘、同じ労働者階級の奮起を見殺にせず」と稱し、總聯合會側は「あれで坑夫組合が起たなかつたら、今後存在は覺束ない